

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 卒業生および就職先に対し、学科単位で最長でも8年に一度アンケート調査を実施する。	→アンケート調査の実施間隔、および集計結果・検討結果の報告。	C	B	/	/	/
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 学習成果の指標としては、大学院への進学率や就職状況が挙げられる。大学院への進学率は2008年度53.2%、2009年度43.3%、2010年度51.5%と約50%と高い水準である。また、就職決定率は2008年度97.1%(全国平均95.7%)、2009年度95.2%(全国平均91.8%)、2010年度97.2%(全国平均91.1%)と全国平均の水準を上回っている。また、カリキュラムが教育目標に沿ったものであるとの前提に立つなら、4年次への現役進級率も学成果の有用な指標と考えられる。4年次への現役進級率は2005年度入学生87.6%、2006年度入学生86.4%、2007年度入学生84.1%と85%前後を維持している。卒業生からのフィードバックは改組の機会に行っているが、これを定期的・継続的に行って行く必要がある。卒業生へのアンケートは、2002年度改組時に物理学科と化学科、2009年度改組時に生命科学科と情報科学科、2010年度に物理学科で実施している。近い機会に化学科で再度実施したいと考えている。
小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 (説明) 学位授与の基準および手続きに関しては、教授会の議を経て厳格に行っており、問題が生じる余地はないと考える。卒業後の評価については、6.4.1のアンケートで順次実施している。
その他	

### 《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況  
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数  
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合  
 在学生のうち「この大学で人生の一時を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率  
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数  
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数  
 3年卒業の適用者数  
 ジョイント・ディグリーの授与者数  
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

&lt;評価専門委員会の評価&gt;

【学外委員】

○卒業生へのアンケートが定期的実施されていることは高く評価できます。アンケート調査のデータの解析や結果のフィードバックなど、今後はPDCAサイクルの活性化が期待されます。

【学内委員】

○4年生の大学院への進学率並びに就職決定率はいずれも平均水準を上回っており、具体的な教育成果が出ているものと考えられます。卒業生に対するアンケート調査を実施している点は評価できますが、結果を具体的な教育内容に結びつけるにはタイムスパンが少し長い気がします。成績評価については適切に行われていると思われま。

○学習成果の指標として就職状況の把握は重要な事ですが、そこに至るまで、即ち科目ごとの成績評価に関し、データで把握されているのでしょうか。

○小項目6.4.2については、大学基準協会の留意すべき事項の観点からの説明が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.4.1(現状説明)

開講科目の受講登録者数や成績評価分布も学習成果の指標の1つと考えられる。この資料はカリキュラムWGで作成され、学部長室委員会でその内容が分析され、授業に役立てるように教授会で配布されている。

★6.4.2(現状説明)

学生に授業科目履修心得を配布し、そこに卒業要件を記している。